

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2774200923
法人名	社会福祉法人慶徳会
事業所名	グループホーム ふじい
訪問調査日	平成21年9月17日
評価確定日	平成21年10月14日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2774200923
法人名	社会福祉法人 慶徳会
事業所名	グループホーム ふじい
所在地	茨木市見付山1-3-29 (電話) 072-623-9602

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年9月17日	評価確定日	平成21年10月14日

【情報提供票より】(21年8月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	13 人	常勤	4 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 7.5 人

(2)建物概要

建物構造	木造カラー鋼鉄葺 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無○	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4)利用者の概要(8月25日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 82 歳	最低	71 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人博愛会 老人ホーム診療所
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営主体は社会福祉法人慶徳会で、関係する14種の介護施設・事業所は周辺に集中している。慶徳会への地域の信頼度は高く、当ホームもその一つである。医療環境にも恵まれ、近くには済生会茨木病院や博愛病院などがある。又、地域と一体となり利用者の生活の場としてのかかわりを大切にしている。そして利用者の個別性を重視し、一人一人の生活域を重視し自立に向けての支援を行っている。又敷地内には、広い菜園があり季節ごとの野菜を植えられて、食卓によく上がり、暮らしの楽しみとなっている。その他音楽療法や、レクレーションも導入し職員の対応も丁寧で生活の時間はゆとりと落ち着いた流れである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価の改善点①重度化や終末期にむけた方針が挙げられているが、本人や家族の希望を重視し、運営推進会議の意見を参考にしていくこと、かかりつけ医との連携を密にして限界迄ホームでの支援を行う。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価については、管理者と全職員が相談し、自己評価から気付きや改善点を見出してサービスの向上につとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回と定着して行っている。利用者・家族・民生委員・包括支援センター・管理者・職員等で運営され、テーマ等は特に決めず身近な出来事、気づきなどを中心に話し合っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時には意見や苦情不安等が言いやすい雰囲気作りにつとめ、又出された意見や要望は記録に残し、真摯に受け止めホームの運営の参考にしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域自治会や老人会に参加し、近隣の独居老人の方とも連携を密にしている。地域のいきいきサロンとも積極的に交流している。散歩時には近隣住民とも明るくかかわりを持っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念としている利用者の個人を尊重し、地域との連携を持ち家庭的な雰囲気を重視し、開かれたホームを目指している。アットホーム的な施設であり地域密着性を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は会議や研修会などを通して常に職員の質の向上に努力している。職員に対しては、毎日のミーティングや会議を通して徹底している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域や老人会等の行事活動に参加している。又散歩時には近隣の住民との会話を持ち、明るい日々を送っている。地域老人会とも交流を密にし、イキイキサロンにも参加し地域のなかでの生活感を見い出している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者だけでなくミーティングを持ち、職員全員で検討し意見交換を行い、改善点を見い出す努力をしている。外部評価の結果は廊下に開示して全員で確認出来るようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は2ヶ月に1回開かれている。出席者は利用者・家族・介護相談員や地域福祉委員が出席している。出された意見は今後のホームの運営に生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	種々の生活相談ごとは、市の介護保険課に相談している。介護福祉課とは積極的な関係づくりを行い、必要に応じて入居者の介護サービスと質の向上に役立てている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月のホーム便りを家族送付し、各個人毎にホームの生活状況を紹介している。又必要に応じて家族から現金を預かり、金銭管理を行っている。家族の訪問時は意見や要望を気軽に言えるような雰囲気作りに心がけている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年1回行い、家族からの意見苦情は記録し、対応方法を分析し、今後のサービスの提供にいかせている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	夜勤職員については異動はあるが、日勤職職員については異動はなく、利用者との馴染みの関係が保たれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人・内・外の職員研修は順次受講している。それらをまとめ必ず全員に共有出来る様に伝達講習を行い、質の向上に役立てている。又職員の意欲向上に向けた取り組みに色々工夫している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設や他の同業者との関連を持ち、情報支援を行っている。相互訪問などお互いの質を高めているがレポートにまとめ自己評価につなげることが今後の課題である。	○	内外を通じた職員の研修を各自が理解し研修会のまとめを今後の介護の実践に生かし、更なる質の向上につながることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の本人や家族の意向を十分聞き、何が求められているのかを見極め、安心かつ納得されて入居される様に工夫している。初回からアセスメントシートを活用し要望などが出来るだけ正確に職員が把握出来るように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が共に生活すると言う関係を持ち、又人生の先輩として学ばせていただき支えあう関係を築いている。利用者と共に生活する生活感を味わうために調理や手芸など様々な取り組みをしている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との何気ない会話の中から希望や意向の理解をするようにしている。利用者との日常の会話を大切に、1人1人の思いを把握し、職員全員が共有する様にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らしていけるように家族の方とよく話し合い、カンファレンスを持ち、何が一番心地よい生活であるのか検討し、介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しは3ヶ月に一度実施しているが、利用者の心身共に変化がみられる場合はその都度計画の見直しを行い、現状に即したケアプランを立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	規則にこだわることなく利用者への現状にあった支援をしている。利用者の状況に応じて併設の春菊園との連携を密にして、本人や家族の要望に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が望めばかかりつけ医の受診を実施し、常に健康状態を利用者と共有し家族にも連絡している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族が来訪時には運営推進会議で話し合ったこと等を伝え、機会があるたびに意向を聞き、本人の状態をみきわめ家族やかかりつけ医と相談しながら取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳に配慮し、特に排出時や入浴時にはプライバシーを損ねない様に対応している。個人情報には気を配り書類は特に施錠して管理を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らし方はゆったりとしたスペースの中で利用者本人がその日の過ごし方を決めている。クラブ等にも参加するのは本人の自由に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立については出来るだけ利用者の好みを重視している。食材は新鮮なもの、旬のものを取り寄せている。又菜園で収穫したものも食卓にのぼる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室はゆっくりとしたスペースである。原則的に週3回としているが、利用者の要望に応じて臨機応変に対応している。シャワー浴もありリラックスしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の自立や生きがい、又生きていることの実感を持つために、本人の持てる力を生かしながら、役割を果たす様な支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ複数で声を掛け合い、毎日散歩を実施している。散歩道中の草花や畑の作物等季節感を味わいながら散歩する様な支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常玄関には鍵をかけず出入りは自由である。小型受信機を設置し不意の事態にそなえている。特に利用者の出入りには、十分注意し見守り、を行う。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は月1回、時間帯も考慮し実施している。消防署とも常に連携をもち時々立ち会いのもとに行っている。地域自治会にも声をかけを行い支援つなげる話もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設長は栄養士であり、利用者1人1人の栄養のバランスや水分の摂取量もアセスメントシートを作成し綿密な観察を行い十分配慮しチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広くゆったりとしている。玄関には花や掲示物作品などがさりげなく配置され、利用者がくつろげる様に工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋の入り口には間違いを防ぐ工夫として本人の写真入りの表札があり、居間には使い慣れた家具や仏壇などがあり思い出の詰まった生活をしている。		